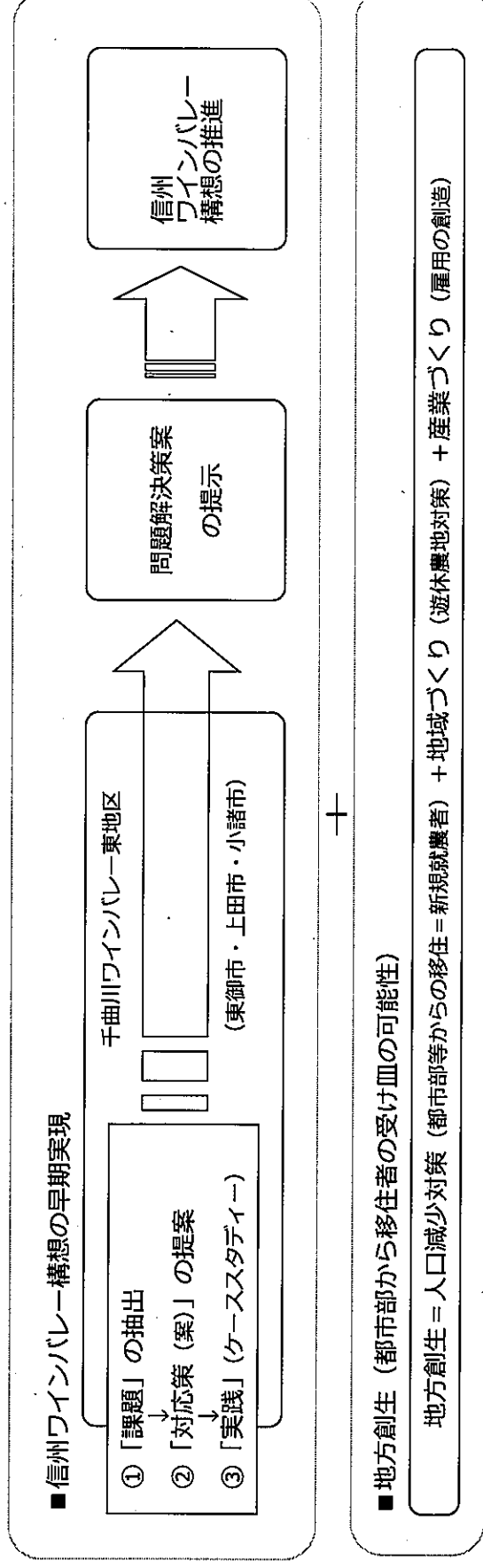


〈目的〉

- 「信州ワインバレー構想」の早期実現と、都市部からの移住者の受け皿としての産業（ワイン用ブドウの生産＋加工）の可能性を確認する。
- 事業化の加速化を図るため、「千曲川ワインバレー東地区」をモデル地区に設定し、課題と対策を集中的に検討し、他地域のワイン産業振興に資する情報を提供する。



—

〈活動状況&検討状況〉

種別	現状と課題	検討すべき具体的な対応（検討中）	関係機関・関係部局等
農地関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農地の賃貸借契約が短い <ul style="list-style-type: none"> ・ブドウの収穫までに約5年かかるが、多くの農地所有者が希望する賃貸借契約は短い（「まず、2年やってみて、本当にやる気があるか分かったら、その特に、継続を考えよう」と言われた） ○ 農地（貸出用）が少ない <ul style="list-style-type: none"> ・連続した農地を確保することが難しい ○ 遊休荒廃地は、水源から遠いところが多い <ul style="list-style-type: none"> ・上水道を利用するには、上水事業者との協議が必要 	<ul style="list-style-type: none"> □ 農地所有者の理解促進 □ 農地中間管理機構等を活用した支援を研究 □ 水源確保の研究（→上水道利用、ダム等の利用研究） 	就農希望者（新規就農者） 農地所有者（農業者） 水利権者 農業委員会 農地中間管理機構 農協（JAフアーム） 市町村 県（農政部等）
住宅関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 移住者の住宅の問題 <ul style="list-style-type: none"> ・現在もいろいろ制度があるが、農地から遠いなど、利用しづらいケースが多い ・理想は、ブドウ農地に隣接した住居 	<ul style="list-style-type: none"> □ 現行制度の研究と見直しの可能性 □ 「空き家」対策と連携できないか？（→古民家片付け隊との連携） 	市町村（東御市） 県 空き家所有者等
支援施設	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワイン用の分析センター（研究施設）が欲しい <ul style="list-style-type: none"> ・本格的なワイン振興には、ブドウの成分分析は必要不可欠 ・分析センターは、個々の農業者では整備ができない 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「しあわせ信州食品開発センター」の活用 □ 「信州大学繊維学部の大室農場」の活用 	県（産業労働部、農政部） 信州大学 市町村（東御市）
支援制度の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新規就農者の収入ゼロ期間（約5年間）の支援策 ○ 初期投資の軽減策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「新規就農里親支援制度」の課題把握と研究 □ 新規就農者の生活維持のための支援の是非とその可能性の研究 	市町村（東御市） 県（農政部） JA 農地中間管理機構

参考資料：新規就農者のイメージ（ワイン用ブドウ栽培農家のケース）

	0年目	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年
決意（資金計画、生活計画策定）											
研修（ワインアカデミー等）											
苗木購入・植栽			● 植付								
苗木の管理（収入なし）											
ワイン用ブドウ収穫（収入あり）											

苗木の手配に約1年間かかる
(この間、徐々に低減)
(この間、徐々に増大)

※ 5年間の無収入期間の対策がポイント！！